

山ぼうし

第34号 平成20年 1月30日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、
花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし
の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



0 から 1 への距離は、 1 から 1000 へより大きい

標題は、ユダヤの格言である。ゼロはゼロ、1までの隔たりは無限。我々は0から1への距離は1だと思込んでいる。しかし、1は1000回積み重ねれば、1000になるが、0とは何も無いことだ。0を何回積み重ねても1にはならない。ゼロからの出発というが、1という実体あるものを獲得するまでが大変なのである。1の持つ意味は巨大なものがある。たったの1をおろそかにしてはいけない。地道な努力無しに1へは到達し得ない。何事も、1になるためにまず第一歩を踏み出すことが重要である。

いよいよ3年生諸君は、約100名が就職し、ゼロからのスタートを切ることになる。岩手労働局によると、高卒就職者の離職率は、3年目で50%に達するという。宮古管内はもっと悪く、57%程度である。つまり、二人に一人以上が3年以内に仕事を辞めている。就職1年目の離職率は、県内の場合30%である。なんと"1"になる前に離職する者の多いことか！

会社は、「4月から正社員としてばりばり稼いでもらおう」などとは考えていない。しばらくは、試用期間、育成期間であるのが一般的である。採用前に1度や2度の面接をしただけで、その人の能力や適格性を見抜くのは難しい。そこで、初めから正式の本採用としないで、一定期間を定めて試しで雇ってみる試用期間が設けられているのである。そし

校長 兼 平 栄 補

て、この期間中に能力や技能、勤務態度・性格などの適格性をみて、正式な社員として採用するかどうかを決める。試用期間というのは従業員にとっては不安定な立場なので、一般的には3ヶ月とか6ヶ月で、最長でも1年が限度と解釈されている（特に労働基準法等での定めはない）。本採用拒否が行われる場合、次のような事由が正当な事由とされている（裁判例）。

- ・出勤率不良として、出勤率が90%に満たない場合や3回以上無断欠勤した場合
- ・勤務態度や接客態度が悪く、上司から注意を受けても改善されなかった場合
- ・協調性を欠く言動から、従業員としての不適格性がうかがえる場合
- ・経歴詐称

試用期間は本採用とするために教育や指導をする期間である。"1"にするために、または"1"になれるかどうかを判断するための期間である。不適格性を指摘されれば、解雇となるのである。一人前と認められ、信頼を得られるよう満身で第1歩を踏み出して欲しい。

最後にもう一つ格言を、「一度に海を作ろうと思ってはならない。まず小川から作らなければならない」（ユダヤの格言）

2・3月行事予定

2月 1日(金)
2月 1日(金) ~ 6日(水)
2月 2日(土) ~ 3日(日)
2月 6日(水)
2月 7日(木)
2月 8日(金)
2月14日(木) ~ 19日(火)
2月29日(金)
3月 1日(土)

標準テスト(1年電気電子科、2年全科)
3年定期考査
バスケットボール沿岸大会
電子機械科閉科式
「いきいき宮工2007」発表会
漢字検定
1・2年定期試験
卒業式予行
卒業式



本年度3年生の進路状況

9月からの実質的にスタートした本年度の3年生の進路決定に向けての活動がほぼ全員終了いたしました。3月1日の卒業式に向けて、各々の将来に備えた準備の毎日になります。立派な姿で卒業式を迎えられるよう、残り少ない日々を充実して過ごしていきたいと頑張らせて参りたいと存じます。

今年度の進路決定に向けては、景気回復と共に県外の製造業の求人が伸びる一方、管内、県内の就職については例年並みかそれ以下の数に留まりました。厳しい就職活動を強いられる生徒も多く、早め早めの気持ち、整容などの準備が必要であることを痛感させられました。

また、進学関係もまずまずの内定状況です。医療関係の専門学校を希望している者が苦戦をしています。「目的意識をはっきりさせ、学力をしっかりとつけておく」という当然のことが大切です。

進路決定に当たっては、今年も沢山の関係の方々、特に就職支援相談員の佐藤氏、そして保護者の皆様には大変な世話、ご配慮をいただきました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。(進路指導部)

	機械科	電気科	電子機械科	設備工業科	合計
管内	15	8	6	11	40
県内	3	1	1	1	6
県外	15	9	9	15	48
公務員	1	0	1	0	2
その他	0	0	2	0	2
合計	34	18	19	27	98
大学	1	0	4	1	6
専門学校	1	2	5	0	8
各種学校	1	0	5	0	6
合計	3	2	14	1	20

生徒研究「県発表会」 優秀賞 ダブル受賞の快挙！

1月24日、第18回岩手県工業高等学校工業クラブ連盟生徒研究大会が北上市文化センター「さくらホール」で行われた。これは、県内の工業学科のある高校の生徒が取り組んだ研究成果を発表する大会で、各校から研究発表部門・作品展示部門・パネル発表部門の3部門別に作品が出される。なお、研究発表部門・作品展示部門別に作品が評価され、最優秀賞1作品と優秀賞2作品、奨励賞2作品が選考される。本校からは、課題研究の時間に取り組み、校内代表となつた作品として、研究発表部門に設備工業科の「スターリングエンジンカーの製作」、作品展示部門に機械科の「擬似津波発生装置の製作と擬似津波実演」が出品された。

設備工業科3年池上誠司さん、加藤治さん、木村実成さんの発表でスターリングエンジンを搭載した自動車模型の製作過程や試験走行の結果を発表すると、審査員からは試験走行の比較方法や、研究の継続に対してなどの意見が出された。また、津波模型にも多くの人が訪れ、色鮮やかな模型についてのいろいろな質問に対して、機械科の生徒は丁寧に答え、自分たちの研究の成果を発表した。



審査の結果、研究発表部門・作品展示部門ともに優秀賞を受賞した。なお最優秀賞には、研究発表部門では、様々な「スライム」を通して小学校へ出前授業で工夫を凝らした成果をまとめた盛岡工業高校の『「スライムを化学する！」～出前授業に向けて～』が、そして作品展示部門では、ゴミを入れると音声で応えるゴミ箱を製作した黒沢尻工業高校の『朝専用ゴミ箱』がそれぞれ受賞した。